

# D | AMライフサイクル・ファンド<DC年金> (1 安定型 / 2 安定・成長型 / 3 成長型)

追加型投信 / 内外 / 資産複合

## 受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

さて、「D | AMライフサイクル・ファンド<DC年金>」は、2019年5月27日に第18期の決算を行いました。

各ファンドは、主にマザーファンドを通じて実質的に国内株式・国内債券・外国株式・外国債券の4つのアセット（資産）に投資し、基本アロケーションのもと、個別資産毎にアクティブ運用を行い、合成インデックスをベンチマークとして超過収益を積み上げることを図ります。当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2018年5月26日～2019年5月27日

第18期		決算日：2019年5月27日
第18期末（2019年5月27日）		
D   AMライフサイクル・ファンド<DC年金>1安定型		
基準価額	13,561円	
純資産総額	10,311百万円	
第18期	騰落率	△2.5%
	分配金合計	0円
D   AMライフサイクル・ファンド<DC年金>2安定・成長型		
基準価額	15,436円	
純資産総額	25,811百万円	
第18期	騰落率	△4.1%
	分配金合計	0円
D   AMライフサイクル・ファンド<DC年金>3成長型		
基準価額	17,167円	
純資産総額	22,999百万円	
第18期	騰落率	△5.5%
	分配金合計	0円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

(注2) △（白三角）はマイナスを意味しています（以下同じ）。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

## ■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

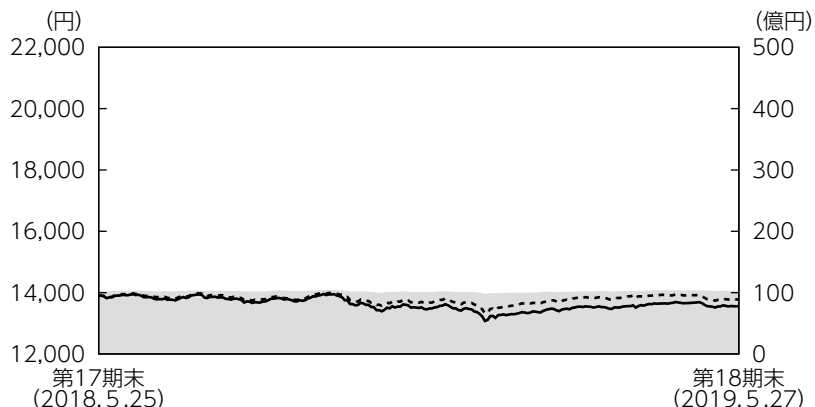
アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

## 運用経過の説明

D I AMライフサイクル・ファンド&lt;DC年金&gt; 1 安定型

## 基準価額等の推移



第18期首： 13,904円  
 第18期末： 13,561円  
 (既払分配金0円)  
 騰落率： △2.5%  
 (分配金再投資ベース)

■ 純資産総額 (右軸) — 基準価額 (左軸) — 分配金再投資基準価額 (左軸) - - - - ベンチマーク (左軸)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマーク（当社が独自に指数化する合成インデックス）は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。なお、ベンチマークについては後掲の「当ファンドのベンチマークについて」をご参照ください。

## 基準価額の主な変動要因

世界景気の先行き懸念やF R B（米連邦準備理事会）議長が追加利上げを急がない姿勢を示したこと等を背景に日本を含む主要国で長期金利が低下（価格は上昇）したこと、米国の株式市場が上昇したこと等がプラスに寄与したものの、国内企業業績の先行きに対する不透明感等から国内株式市場が大きく下落したことや、為替市場でユーロや英ポンド等の主要通貨に対して円高に振れたこと等がマイナスに寄与し、基準価額は下落しました。

## ◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
DL ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド	△13.2%
DL ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド	2.1%
DL インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド	3.6%
DL インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド	2.5%

## 1 万口当たりの費用明細

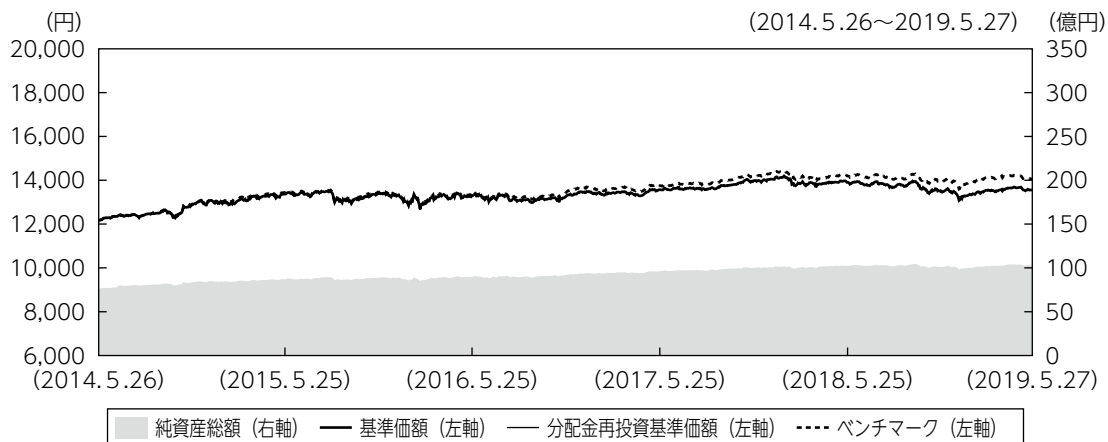
項目	第18期		項目の概要
	(2018年5月26日 ～2019年5月27日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	222円	1.629%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は13,629円です。
(投信会社)	( 84)	(0.619)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(123)	(0.901)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託銀行)	( 15)	(0.109)	受託銀行分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	2	0.014	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(株式)	( 2)	(0.014)	売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(c) 有価証券取引税	0	0.001	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
(株式)	( 0)	(0.001)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	1	0.008	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	( 0)	(0.003)	保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用
(監査費用)	( 1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	( 0)	(0.001)	その他は、信託事務の処理に要する諸費用等
合計	225	1.651	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## 最近5年間の基準価額等の推移



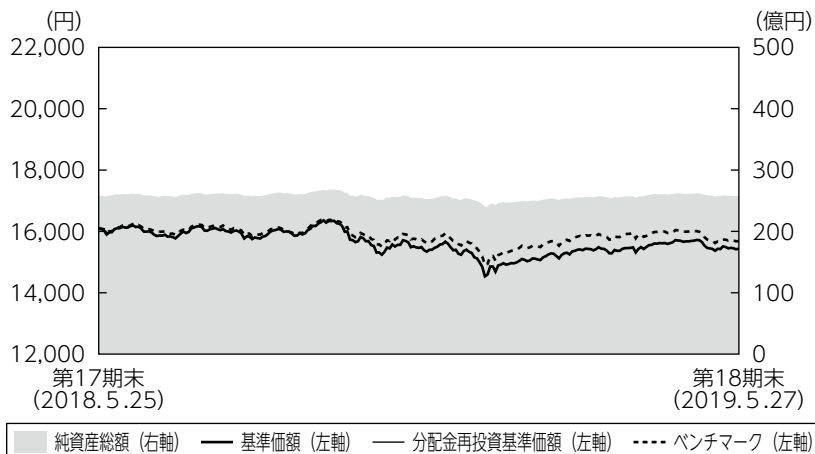
(注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2014年5月26日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2014年5月26日 期首	2015年5月25日 決算日	2016年5月25日 決算日	2017年5月25日 決算日	2018年5月25日 決算日	2019年5月27日 決算日
基準価額 (分配落)	(円) 12,171	13,379	13,293	13,569	13,904	13,561
期間分配金合計 (税引前)	(円) -	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率	(%) -	9.9	△0.6	2.1	2.5	△2.5
ベンチマークの騰落率	(%) -	10.5	△0.8	3.1	3.2	△0.9
純資産総額	(百万円) 7,610	8,721	8,977	9,628	10,221	10,311

## 基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマーク（当社が独自に指数化する合成インデックス）は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。なお、ベンチマークについては後掲の<当ファンドのベンチマークについて>をご参照ください。

## 基準価額の主な変動要因

世界景気の先行き懸念やF R B（米連邦準備理事会）議長が追加利上げを急がない姿勢を示したこと等を背景に日本を含む主要国で長期金利が低下（価格は上昇）したこと、米国の株式市場が上昇したこと等がプラスに寄与したものの、国内企業業績の先行きに対する不透明感等から国内株式市場が大きく下落したことや、為替市場でユーロや英ポンド等の主要通貨に対して円高に振れたこと等がマイナスに寄与し、基準価額は下落しました。

## ◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
DL ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド	△13.2%
DL ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド	2.1%
DL インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド	3.6%
DL インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド	2.5%

## 1 万口当たりの費用明細

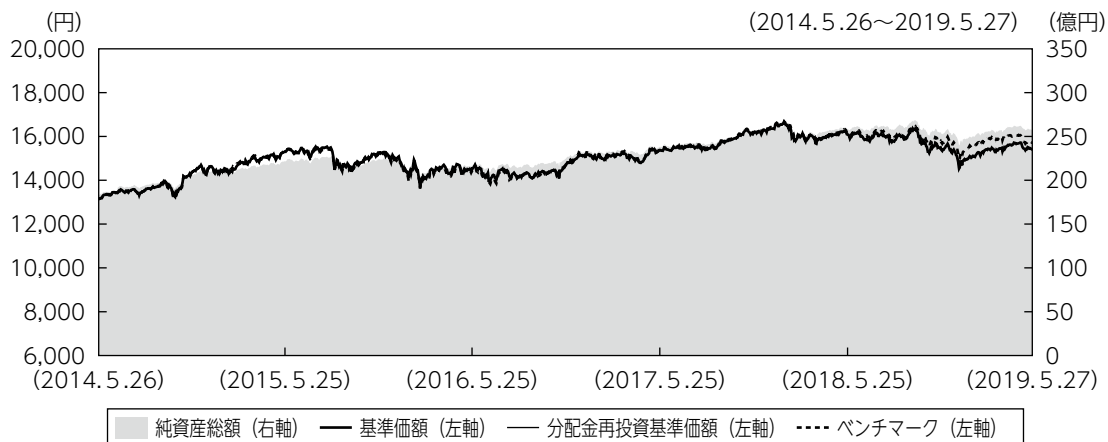
項目	第18期		項目の概要
	(2018年5月26日 ～2019年5月27日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	255円	1.629%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は15,632円です。
(投信会社)	( 97)	(0.619)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(141)	(0.901)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託銀行)	( 17)	(0.109)	受託銀行分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	4	0.024	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(株式)	( 4)	(0.024)	売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(c) 有価証券取引税	0	0.001	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
(株式)	( 0)	(0.001)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	2	0.010	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	( 1)	(0.005)	保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用
(監査費用)	( 1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	( 0)	(0.002)	その他は、信託事務の処理に要する諸費用等
合計	260	1.665	

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## 最近5年間の基準価額等の推移

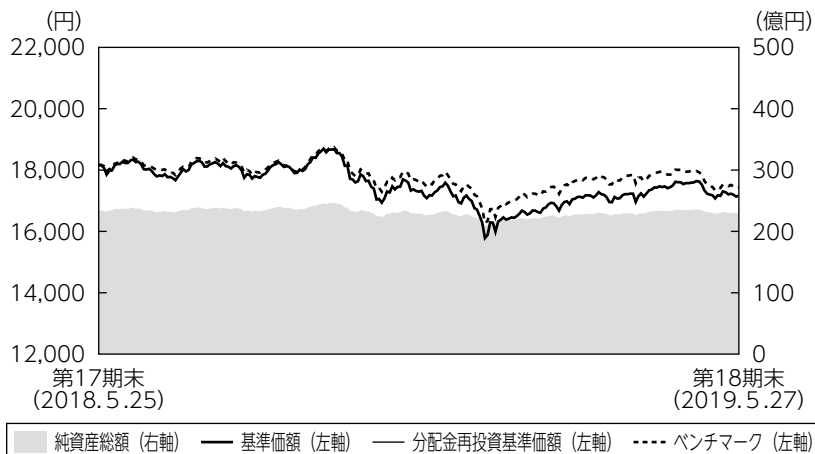


- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2014年5月26日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2014年5月26日 期首	2015年5月25日 決算日	2016年5月25日 決算日	2017年5月25日 決算日	2018年5月25日 決算日	2019年5月27日 決算日
基準価額 (分配落)	(円) 13,147	15,316	14,542	15,383	16,091	15,436
期間分配金合計 (税引前)	(円) -	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率	(%) -	16.5	△5.1	5.8	4.6	△4.1
ベンチマークの騰落率	(%) -	16.5	△5.8	6.7	4.9	△2.5
純資産総額	(百万円) 18,305	22,176	21,698	23,824	25,816	25,811

## D I AMライフサイクル・ファンド&lt;DC年金&gt; 3成長型

## ■ 基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマーク（当社が独自に指数化する合成インデックス）は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。なお、ベンチマークについては後掲の<当ファンドのベンチマークについて>をご参照ください。

## ■ 基準価額の主な変動要因

世界景気の先行き懸念やF R B（米連邦準備理事会）議長が追加利上げを急がない姿勢を示したこと等を背景に日本を含む主要国で長期金利が低下（価格は上昇）したこと、米国の株式市場が上昇したこと等がプラスに寄与したものの、国内企業業績の先行きに対する不透明感等から国内株式市場が大きく下落したことや、為替市場でユーロや英ポンド等の主要通貨に対して円高に振れたこと等がマイナスに寄与し、基準価額は下落しました。

## ◆ 組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
D L ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド	△13.2%
D L ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド	2.1%
D L インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド	3.6%
D L インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド	2.5%



## 1万口当たりの費用明細

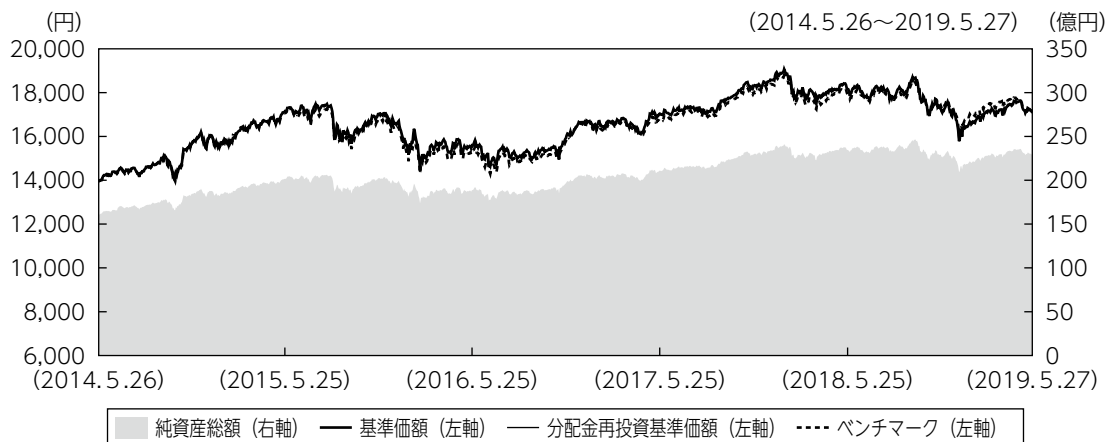
項目	第18期		項目の概要
	(2018年5月26日 ～2019年5月27日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	285円	1.629%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は17,507円です。
(投信会社)	(108)	(0.619)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(158)	(0.901)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託銀行)	( 19)	(0.109)	受託銀行分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	6	0.034	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(株式)	( 6)	(0.034)	売買委託手数料は、組入有価証券等の売買の際に発生する手数料
(c) 有価証券取引税	0	0.002	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
(株式)	( 0)	(0.002)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	2	0.014	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	( 1)	(0.007)	保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用
(監査費用)	( 1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	( 0)	(0.003)	その他は、信託事務の処理に要する諸費用等
合計	294	1.678	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## 最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2014年5月26日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2014年5月26日 期首	2015年5月25日 決算日	2016年5月25日 決算日	2017年5月25日 決算日	2018年5月25日 決算日	2019年5月27日 決算日
基準価額 (分配落)	(円) 13,958	17,152	15,598	17,044	18,171	17,167
期間分配金合計 (税引前)	(円) —	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率	(%) —	22.9	△9.1	9.3	6.6	△5.5
ベンチマークの騰落率	(%) —	22.3	△10.4	10.1	6.4	△4.1
純資産総額	(百万円) 16,052	20,173	18,885	21,102	23,464	22,999

## 投資環境

国内株式市場は下落しました。世界的な貿易摩擦への警戒からレンジ内での揉み合いを続けた後、2018年末にかけては世界経済の減速リスクが意識される中、下値を探る展開となりました。2019年1月以降は、FOMC（米連邦公開市場委員会）での追加利上げに対する見方が後退したことなどから戻り基調となりましたが、期末にかけては改めて貿易摩擦への警戒が上値を抑える展開となりました。

国内債券市場では、長期金利（10年国債利回り）は、2018年9月までは上昇基調でしたが、10月中旬に米国の長期金利の上昇や米中貿易問題の激化を背景に株式市場が大幅な調整となる中、質への逃避を背景とした債券買いが活発となり、内外の長期金利は低下基調に転じる展開となりました。2019年に入り、米欧の中央銀行が緩和的な金融政策方針に転じたことも影響し、日本の長期金利は2019年3月に一時△0.10%まで低下、それ以降もマイナス圏の推移となりました。

外国株式市場は、期初から2018年9月にかけては、米国の対中関税に対する材料出尽くし感や米中通商交渉に対する期待感などから、米国の主要株価指数が過去最高値を更新するなど、上昇基調で推移しました。しかし、10月から年末にかけては、世界景気に対する減速懸念が広がったことなどを背景に大きく下落しました。2019年1月から期末にかけては、過度な株価下落の反発や10-12月期の決算発表を受けて値を戻す展開となりました。

外国債券市場では、米中貿易摩擦問題や米国での利上げ継続等を背景に、世界的に景気減速懸念が強まったことから米国やドイツの国債利回りが大きく低下（価格は上昇）しました。その一方で、イタリアでは新政権の財政政策に対する懸念が強まったことで利回りが上昇（価格は下落）しました。

為替市場はまちまちの動きとなりました。期初から2018年12月上旬にかけては、ドル/円相場は、米国の経済指標が概ね良好だったこと等が円安ドル高要因となりました。しかし、2018年12月半ばから2019年1月上旬にかけて一時的に世界景気の先行き懸念が強まったことや、米国の長期金利の低下による日米金利差の縮小が円高ドル安要因となり、前期末比では概ね横ばいとなりました。また、ユーロや英ポンド等、米ドル以外の通貨に対しては、海外の長期金利の低下による内外金利差の縮小等を背景に、概ね円高現地通貨安の動きとなりました。

## ■ ポートフォリオについて

各ファンドでは、各マザーファンドへの投資比率が以下の基本アロケーションからそれぞれ±5%以内の範囲で配分比率を抑えるよう運用を行いました。

### <基本アロケーション>

D | AMライフサイクル・ファンド<DC年金> 1 安定型：

国内株式19%、国内債券65%、外国株式5%、外国債券8%、短期金融資産3%

D | AMライフサイクル・ファンド<DC年金> 2 安定・成長型：

国内株式30%、国内債券43%、外国株式12%、外国債券12%、短期金融資産3%

D | AMライフサイクル・ファンド<DC年金> 3 成長型：

国内株式40%、国内債券22%、外国株式19%、外国債券16%、短期金融資産3%

### ● DL ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド

各業界において競争力の優れた高成長銘柄やバリュエーション面で割安な銘柄など、個別銘柄の選別投資に注力しました。企業のファンダメンタルズ分析に加えて、短期的・中長期的な視点で株価への織り込み度合いを勘案し、より割安と判断される銘柄への入れ替えを継続的に行いました。その結果、その他製品、陸運業などの組入比率を引き上げた一方、非鉄金属、食料品などの組入比率を引き下げました。

### ● DL ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド

デュレーション<sup>\*</sup>戦略は、2018年7月までは長期化戦略、その後11月までは短期化戦略を実施しましたが、内外の長期金利が低下基調に転じる中、12月より超長期債のオーバーウェイトによる長期化戦略を実施しました。クレジット戦略では高い利回りが期待できる事業債等を多めに配分する戦略を継続しました。

<sup>\*</sup>金利変動に対する債券価格の変動性。

### ● DL インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド

各国のマクロ経済分析等によるトップダウン・アプローチを活用しつつ、企業調査活動を基にしたボトムアップ・アプローチによるポートフォリオ構築を行いました。こうした中、業種別では情報技術セクターや資本財・サービスセクターに対する投資比率を高位に維持しました。地域別では、ファンダメンタルズが良好な米国への投資比率を高位に維持しました。

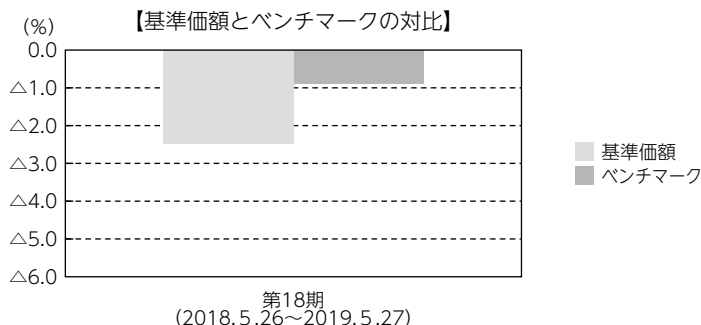
### ● DL インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド

銘柄選択では米国の景気減速を予想し、米国を中心にポートフォリオのデュレーションをベンチマークに対して長期化した他、ユーロ圏では、期待収益率の高いイタリア等の周辺国をオーバーウェイトとする戦略を基本にリスク量を調整しました。通貨配分では経常黒字等を背景としてユーロをオーバーウェイトとした一方、景気減速が見込まれる米ドルをアンダーウェイトとしました。また、豪ドルの対米ドルでのアンダーウェイトを構築しました。

## ベンチマークとの差異について

ベンチマークは前期末比で0.9%下落しました。

当ファンドはベンチマークを1.6%下回りました。主に、信託報酬等がマイナス寄与しました。



(注) 基準価額の騰落率は分配金 (税引前) 込みです。

## 分配金

当期の収益分配金につきましては基準価額水準および市況動向等を勘案し、無分配とさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## 分配原資の内訳 (1万口当たり)

項目	当期
	2018年5月26日 ~2019年5月27日
当期分配金 (税引前)	-円
対基準価額比率	-%
当期の収益	-円
当期の収益以外	-円
翌期繰越分配対象額	4,135円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金 (税引前)」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金 (税引前)」の期末基準価額 (分配金込み) に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

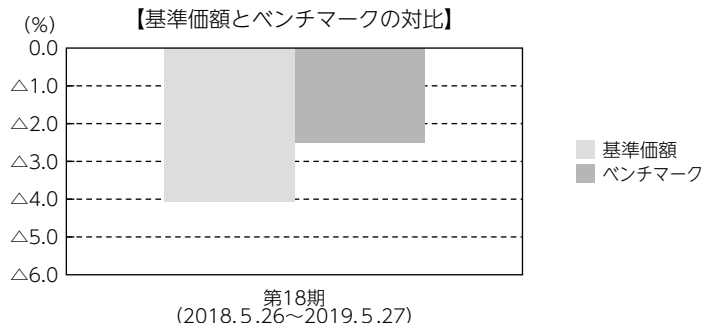
(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益 (含、評価益)」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

## D I AMライフサイクル・ファンド&lt;DC年金&gt; 2 安定・成長型

## ベンチマークとの差異について

ベンチマークは前期末比で2.5%下落しました。

当ファンドはベンチマークを1.6%下回りました。主に、信託報酬等がマイナス寄与しました。



(注) 基準価額の騰落率は分配金 (税引前) 込みです。

## 分配金

当期の収益分配金につきましては基準価額水準および市況動向等を勘案し、無分配とさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## 分配原資の内訳 (1万口当たり)

項目	当期
	2018年5月26日 ~2019年5月27日
当期分配金 (税引前)	-円
対基準価額比率	-%
当期の収益	-円
当期の収益以外	-円
翌期繰越分配対象額	6,934円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金 (税引前)」の額が一致しない場合があります。

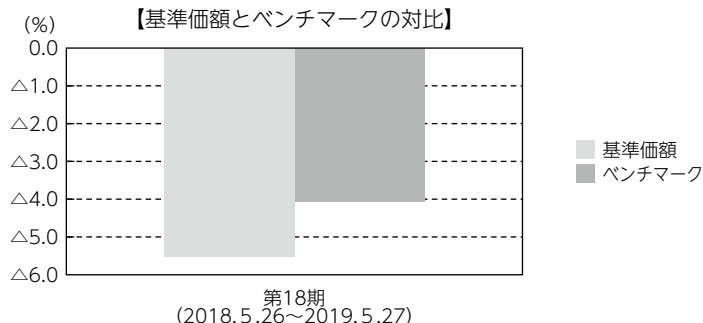
(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金 (税引前)」の期末基準価額 (分配金込み) に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益 (含、評価益)」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

## ベンチマークとの差異について

ベンチマークは前期末比で4.1%下落しました。

当ファンドはベンチマークを1.5%下回りました。主に、信託報酬等がマイナス寄与しました。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

## 分配金

当期の収益分配金につきましては基準価額水準および市況動向等を勘案し、無分配とさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## 分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	当期
	2018年5月26日 ～2019年5月27日
当期分配金（税引前）	－円
対基準価額比率	－%
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	9,918円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

## 今後の運用方針

各ファンドの資産アロケーションは基本アロケーションを基準としており、各資産の時価ウェイトが基本アロケーションから±5%の範囲内に収まるよう必要に応じてリバランスを行います。

### ●DL ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド

世界的な貿易摩擦への警戒から株価の変動性が高まる可能性はありますが、株式市場は割安な株価バリュエーションが支えとなり底堅く推移すると考えています。銘柄選択の視点では、引き続き競争力の強さ等から中期成長性の高い銘柄、足元の業績が市場予想を上回ると予想される銘柄、P E R（株価収益率）等株価バリュエーションが割安な銘柄、株主還元に向きな銘柄等に投資します。また、組入比率については、高位を維持する方針です。

### ●DL ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド

国内債券市場は、長期金利は0%程度を上限としたマイナス圏での推移を予想しています。デュレーション戦略については、長期金利の想定レンジ内での機動的なコントロールを継続し、クレジット戦略については、利回り収益が魅力的な短期、中期ゾーンの事業債等を多めに保有する戦略を継続する方針です。

### ●DL インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド

今後の外国株式市場は、目先は米国をはじめとする主要各国の政治・金融政策動向に左右されやすい、値動きの荒い相場環境を予想します。中長期的には、米国を中心とする主要国の底堅い景気動向や企業業績見通しを背景に、株式市場にとって良好な環境になると考えます。運用方針としては、主に企業の調査活動を通じて魅力的な銘柄の選別に注力します。株式組入比率については、高位を維持する方針です。

### ●DL インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド

米国では、景気減速を示唆する経済指標が散見される中、F R Bが漸進的な利上げ姿勢を転換しており、当面の金利上昇余地は限定的と見ています。このことから銘柄選択については、米国の景気減速感の強まりとともに金利低下が進むことを想定し、デュレーションの長期化を軸にリスク量の調整を行う方針です。通貨配分については需給動向を勘案しながら機動的に戦略を構築する方針です。



## お知らせ

■信用リスクを適正に管理する方法を規定する所要の約款変更を行いました。

(2018年8月25日)

■各ファンドが投資対象とする「DL インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド」において、外債分析システムの名称「G L O B A S」を削除する約款変更を行いました。

(2019年2月26日)

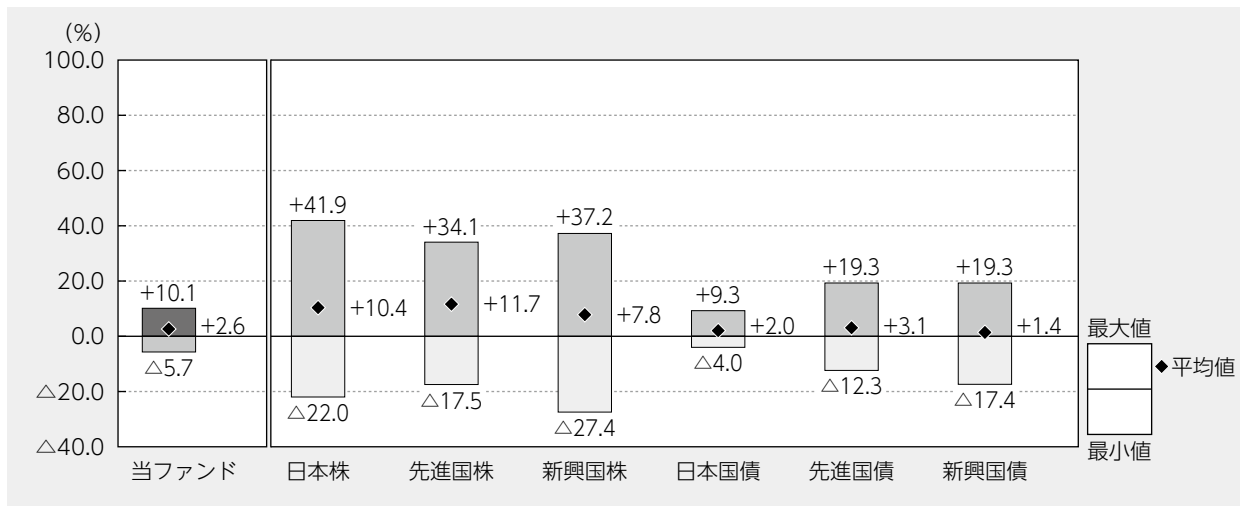
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2001年10月1日から無期限です。	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の長期的な成長を図ることを目標として安定的な運用を行います。	
主要投資対象	ベビーファンド*	以下の各マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	DLジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド	日本の株式（全上場銘柄）を主要投資対象とします。
	DLジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド	日本の公社債を主要投資対象とします。
	DLインターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド	日本を除く世界主要先進国の株式を主要投資対象とします。
	DLインターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド	日本を除く世界主要国の公社債を主要投資対象とします。
運用方法	<p>主としてマザーファンド受益証券への投資を通して、国内株式、国内債券、外国株式、外国債券への分散投資を行います。</p> <p>基本アロケーションのもと、個別資産毎におけるアクティブ運用を行い、委託会社が独自に指数化する合成インデックスをベンチマークとして超過収益を積み上げることを図ります。</p> <p>各資産につき、基本アロケーションにおける各資産毎の比率から±5%以内の範囲で配分比率の変動を抑えます。</p> <p>実質組入れ外貨建資産の為替変動リスクに対しては、原則として為替ヘッジを行いません。</p>	
分配方針	決算日（原則として5月25日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の利子、配当収入および売買益（評価益を含みます。）等の中から基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わないことがあります。	

\*ベビーファンドとは、D I AMライフサイクル・ファンド<DC年金>1安定型、D I AMライフサイクル・ファンド<DC年金>2安定・成長型、D I AMライフサイクル・ファンド<DC年金>3成長型です。

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較

D I A Mライフサイクル・ファンド<DC年金>1 安定型



2014年5月～2019年4月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

### \*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

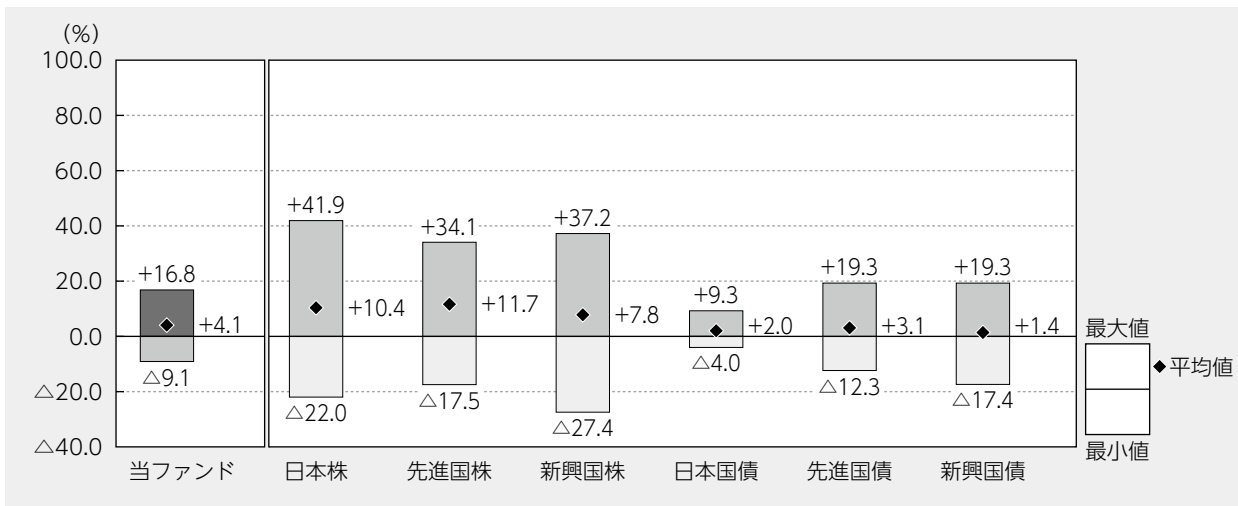
先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>をご参照ください。

D I AMライフサイクル・ファンド<DC年金> 2 安定・成長型



2014年5月～2019年4月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

\*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

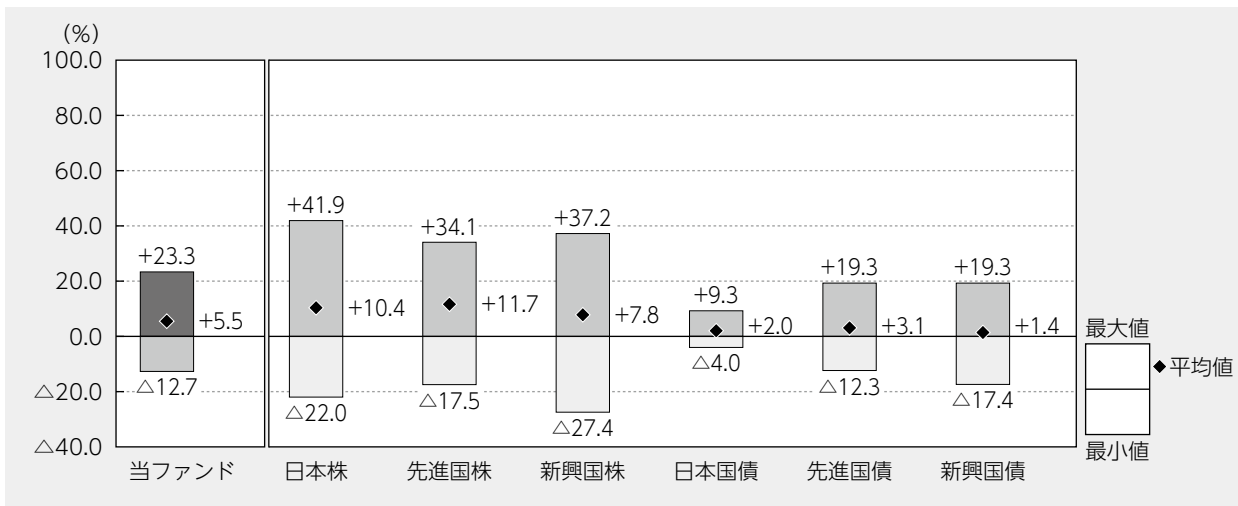
先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

\*各指数については後掲の<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>をご参照ください。

## DIAMライフサイクル・ファンド<DC年金>3成長型



2014年5月～2019年4月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

### \*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株……MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株……MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債……NOMURA-BPI国債

先進国債……FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債……JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

\*各指数については後掲の<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>をご参照ください。

## 当ファンドのデータ

### 当ファンドの組入資産の内容 (2019年5月27日現在)

D I AMライフサイクル・ファンド<DC年金> 1 安定型

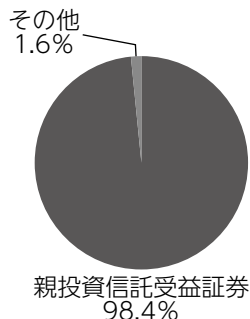
◆組入ファンド等 (組入ファンド数：4 ファンド)

	当期末
	2019年5月27日
D L ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド	65.6%
D L ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド	18.6
D L インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド	8.5
D L インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド	5.7
その他	1.6

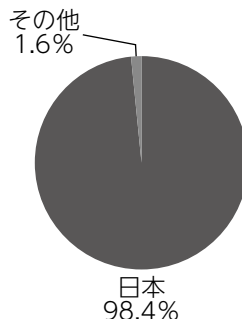
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

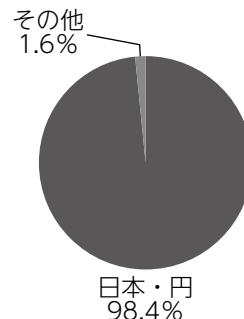
#### ◆資産別配分



#### ◆国別配分



#### ◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

### 純資産等

項目	当期末
	2019年5月27日
純資産総額	10,311,761,764円
受益権総口数	7,603,904,997口
1万口当たり基準価額	13,561円

(注) 当期中における追加設定元本額は1,084,225,879円、同解約元本額は831,884,370円です。

組入ファンドの概要については、24ページ以降をご覧ください。

## DIAMライフサイクル・ファンド<DC年金>2 安定・成長型

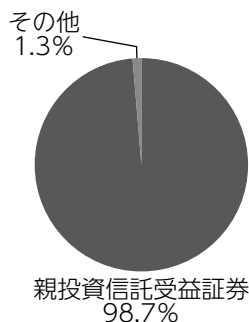
### ◆組入ファンド等 (組入ファンド数：4ファンド)

	当期末
	2019年5月27日
DL ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド	43.4%
DL ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド	29.7
DL インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド	13.1
DL インターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド	12.5
その他	1.3

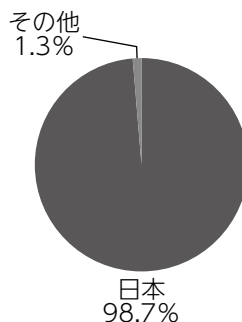
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

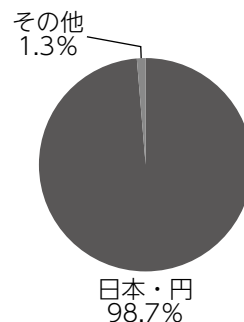
### ◆資産別配分



### ◆国別配分



### ◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

## 純資産等

項目	当期末
	2019年5月27日
純資産総額	25,811,485,841円
受益権総口数	16,721,858,658口
1万口当たり基準価額	15,436円

(注) 当期中における追加設定元本額は1,925,055,713円、同解約元本額は1,247,404,019円です。

組入ファンドの概要については、24ページ以降をご覧ください。

## D I AMライフサイクル・ファンド&lt;DC年金&gt; 3成長型

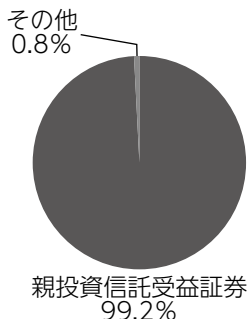
## ◆組入ファンド等 (組入ファンド数：4ファンド)

	当期末
	2019年5月27日
D I AMジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド	39.9%
D I AMジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド	22.2
D I AMインターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド	20.5
D I AMインターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド	16.6
その他	0.8

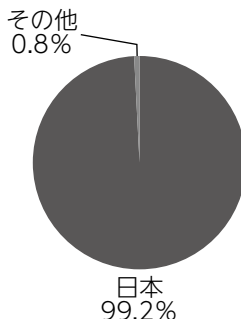
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

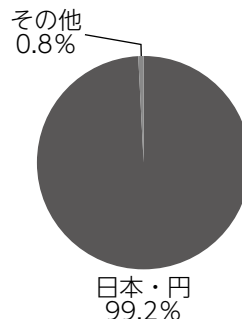
## ◆資産別配分



## ◆国別配分



## ◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

## 純資産等

項目	当期末
	2019年5月27日
純資産総額	22,999,944,923円
受益権総口数	13,397,452,469口
1万口当たり基準価額	17,167円

(注) 当期中における追加設定元本額は1,622,602,380円、同解約元本額は1,137,866,822円です。

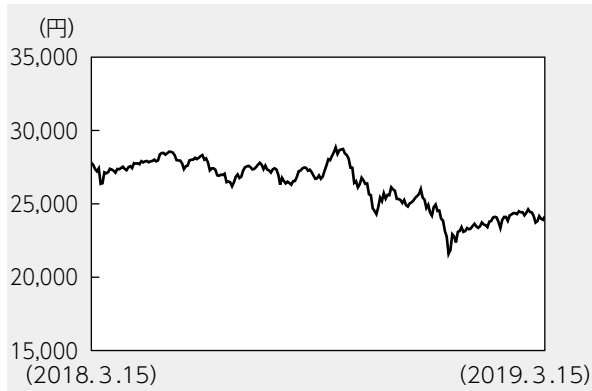
組入ファンドの概要については、24ページ以降をご覧ください。



## 組入ファンドの概要

[D1 ジャパン・アクティブ・オープン・マザーファンド] (計算期間 2018年3月16日～2019年3月15日)

### ◆基準価額の推移



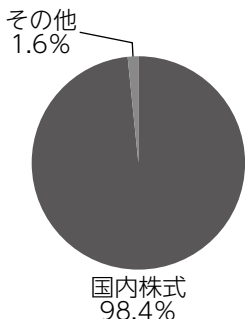
### ◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
日本電産	日本・円	3.6%
ソニー	日本・円	3.1
村田製作所	日本・円	2.7
トヨタ自動車	日本・円	2.7
スズキ	日本・円	2.4
ニトリホールディングス	日本・円	2.3
三井住友フィナンシャルグループ	日本・円	2.2
アルプスアルパイン	日本・円	2.2
日本電信電話	日本・円	2.1
ウエルシアホールディングス	日本・円	2.1
組入銘柄数	77銘柄	

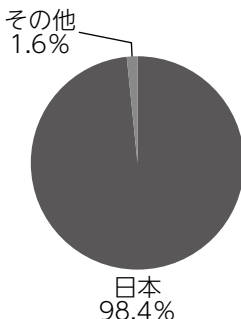
### ◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	16円 (16)	0.059% (0.059)
合計	16	0.059

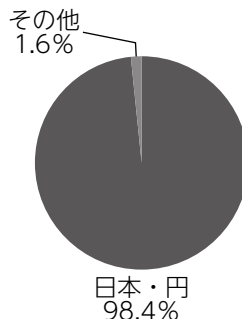
### ◆資産別配分



### ◆国別配分



### ◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額(26,209円)で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

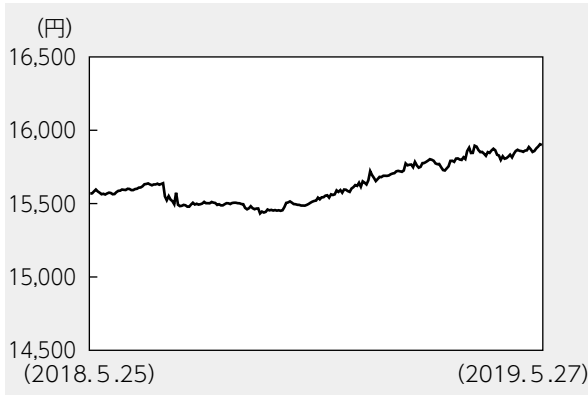
(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

[D I ジャパン・ボンド・オープン・マザーファンド] (計算期間 2018年5月26日～2019年5月27日)

◆基準価額の推移



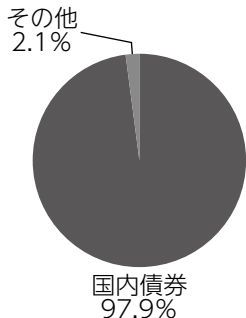
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
352回 利付国庫債券(10年)	日本・円	4.7%
140回 利付国庫債券(20年)	日本・円	3.7
33回 利付国庫債券(30年)	日本・円	3.7
156回 利付国庫債券(20年)	日本・円	3.2
154回 利付国庫債券(20年)	日本・円	3.1
164回 利付国庫債券(20年)	日本・円	2.9
142回 利付国庫債券(20年)	日本・円	2.3
60回 利付国庫債券(30年)	日本・円	2.3
354回 利付国庫債券(10年)	日本・円	2.3
11回 利付国庫債券(40年)	日本・円	1.8
組入銘柄数	134銘柄	

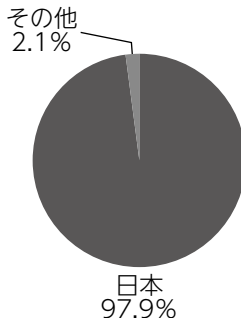
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用)	0円 (0)	0.000% (0.000)
合計	0	0.000

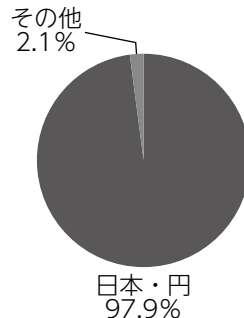
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額(15,636円)で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

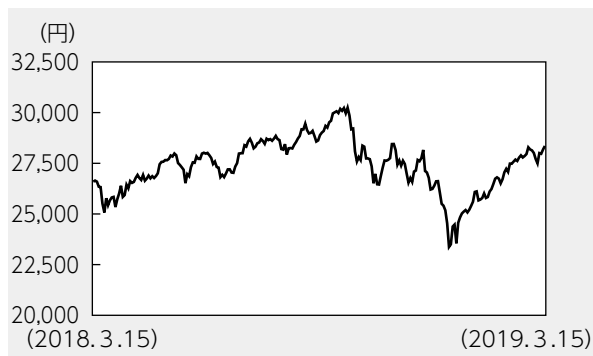
(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

【D L インターナショナル・ハイブリッド・オープン・マザーファンド】（計算期間 2018年3月16日～2019年3月15日）

◆基準価額の推移



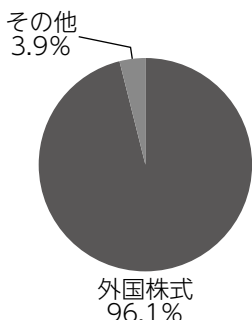
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
MICROSOFT CORP	アメリカ・ドル	4.3%
VISA INC	アメリカ・ドル	3.0
ALPHABET INC-CL A	アメリカ・ドル	2.9
JOHNSON & JOHNSON	アメリカ・ドル	2.9
CSX CORP	アメリカ・ドル	2.4
JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ・ドル	2.3
ADOBE INC	アメリカ・ドル	2.1
CANADIAN NATL RAILWAY CO	カナダ・ドル	2.0
HOME DEPOT INC	アメリカ・ドル	1.9
SUNTRUST BANKS INC	アメリカ・ドル	1.9
組入銘柄数	101銘柄	

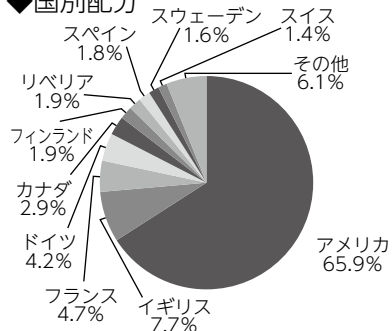
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	20円 (20)	0.073% (0.073)
(b) 有価証券取引税 (株式)	5 ( 5)	0.019 (0.019)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	9 ( 5) ( 4)	0.032 (0.018) (0.014)
合計	34	0.124

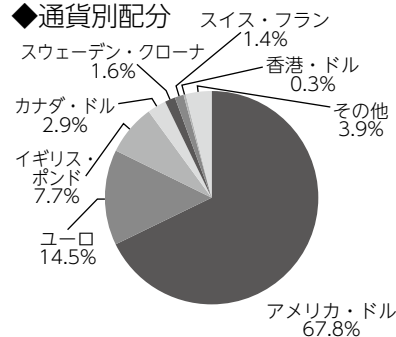
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額（27,391円）で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ（1万口当たりの費用明細）をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

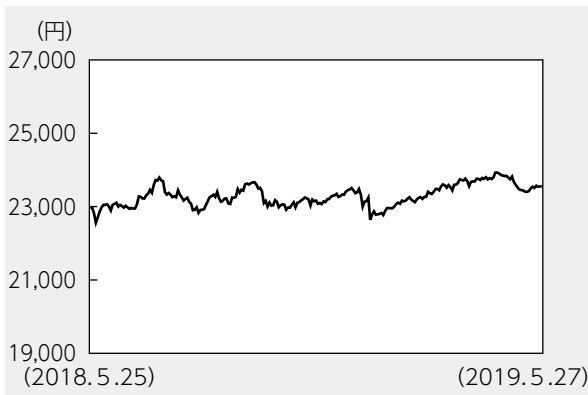
(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 国別配分は、発行国（地域）を表示しています。また、上位11位以下をその他に含めて集計しています。

(注7) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

[DLインターナショナル・ボンド・オープン・マザーファンド] (計算期間 2018年5月26日～2019年5月27日)

◆基準価額の推移



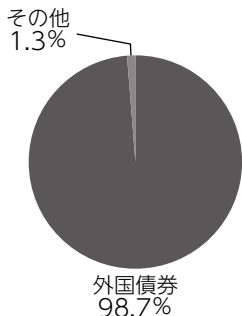
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
US T N/B 2.0 02/15/22	アメリカ・ドル	12.1%
ITALY BTPS 1.25 12/01/26	ユーロ	7.2
US T N/B 2.125 05/15/25	アメリカ・ドル	5.4
MEXICAN BONDS 8.5 05/31/29	メキシコ・ペソ	3.8
US T N/B 2.875 08/15/28	アメリカ・ドル	3.1
ITALY BTPS 2.5 12/01/24	ユーロ	2.9
BELGIUM 5.5 03/28/28	ユーロ	2.4
SPAIN 1.4 07/30/28	ユーロ	2.3
DEUTSCHLAND 0.25 02/15/29	ユーロ	2.2
US T N/B 3.125 11/15/28	アメリカ・ドル	2.1
組入銘柄数	77銘柄	

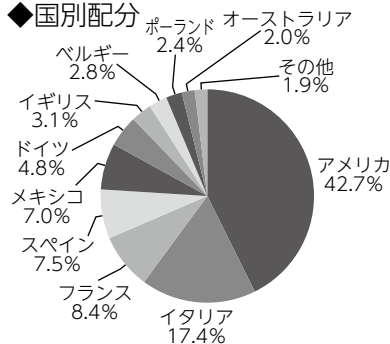
◆1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 (保管費用)	5円	0.021%
(その他)	(0)	(0.000)
合計	5	0.021

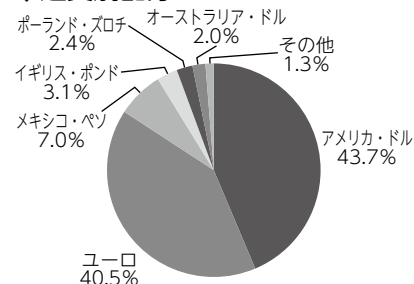
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万口当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額(23,293円)で除して100を乗じたものです。なお、費用項目の概要及び注記については2ページ(1万口当たりの費用明細)をご参照ください。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 国別配分は、発行国(地域)を表示しています。また、上位11位以下をその他に含めて集計しています。

(注7) 通貨別配分は為替ヘッジ考慮前の割合です。為替ヘッジ考慮後の通貨別配分に関する詳細な情報等は、運用報告書(全体版)に記載されています。

(注8) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

## <当ファンドのベンチマークについて>

- 合成インデックスとは、国内株式については東証株価指数（TOPIX）、国内債券についてはNOMURA-BPI総合、外国株式についてはMSCIコクサイ・インデックス（円換算ベース、為替ヘッジなし）、外国債券についてはFTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）、短期金融資産についてはコール・ローンのオーバーナイト物レートを、各ファンドにおける基本アロケーションに基づいて合成したものです。基本アロケーションについては、前掲の「ポートフォリオについて」をご参照ください。
- 運用環境見通し等の大きな変更が信託財産の中長期的な成長に影響をおよぼす可能性が高いと判断した場合には、基本アロケーションの若干の見直しを行う場合があります。
- 東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIXの商標に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、(株)東京証券取引所により提供、保証または販売されるものではなく、(株)東京証券取引所は、ファンドの発行または売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。
- NOMURA-BPI総合の知的財産権その他一切の権利は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

## &lt;代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について&gt;

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(このページは白紙です)

